

## 内山翔太さんが語る自分ストーリー

もともと私が中学生の頃は消極的で人と関わりを避け、英語も苦手だったため海外へ留学することは全く考えていませんでした。そんな私が留学することを決めたのは中学 3 年生の修学旅行でオーストラリアへ行った際、ホストファミリーとまともに会話ができなかった悔しさがあったからでした。これまで人との関わりを避け、何も挑戦してこなかった中学生生活を心底後悔し、その時、「高校生になったらどんなことでも挑戦してみよう！もう一度留学しよう！」と決心しました。

高校 1 年生の頃にニュージーランド、オークランドに 1 年間留学し、現地の公立高校に通いました。最初は、英語で長い会話をしたり、授業を理解したりすることが困難でした。友達の輪に自ら入っていくこともできず、1 人でランチを食べることも多かったです。このままではいけないと感じた私は、主に二つのことに取り組みました。

一つ目は地域の剣道場に通ったことです。高校の部活で学んでいた剣道を通じてなら、友達ができるのではないかと考えました。道場では、国籍も年齢も多種多様な人と出会いました。お互いの国の文化などを語り合うことが多く、自分の世界や価値観が広がっていくことが印象的でした。

二つ目は、日本の文化に興味のある友達を遊びに誘ったことです。ゲームやアニメなどを楽しみ、ご飯を一緒に食べ、友情を深めました。

留学先では友達もでき、英語で自分の世界が広がることを実感しました。同時に、かつての自分のように、英語が苦手な子どもにも英語を学ぶ良さを伝えられる教員になりたいという夢ができました。

帰国後。高校 2 年生の頃に Global Leadership Studies (グローバル課題研究) という授業でタイの農村部の教育課題を解決するべく、外部講師より 1 年間、MIT (マサチューセッツ工科大学) のアントレプレナーシップ教育を学びました。活動の集大成としてピッチコンテストを行い、優勝したチーム (メンバーにも恵まれ私たちのチームが優勝) は本場のアメリカ・ボストンへ視察研修へ行くことができました。ハーバード教育大学院や MIT で教育問題や環境問題を解決するために日夜研究を続けている学生や、起業家からフラットに「あなたはどんな大人になりたいの？」と聞かれ、「より多くの子どもたちにこのような機会を届けられるように、教室と世界を繋げられる教育者になりたい」と伝えたことを今でも昨日の日のことのように覚えています。

夢に近づこうと、高校 3 年生の時に「トビタテ！留学 JAPAN」高校生コース 1 期生として 3 ヶ月間。カナダに留学し、英語教育で有名なブリティッシュコロンビア大学

付属の語学学校に通いました。毎晩、ホストマザーとはこれまでの人生や将来についてたくさん語り合いました。当時は自分に自信が持てず、常に不安や焦りがあったのですが、そんな自分を認めてくれました。一番思い出に残っているシーンで、今も人生の糧になっています。

再び大学 2 年生の頃にカナダのブリティッシュコロンビア大学に留学し、現地の学生と共に寮生活し、グローバルシティズンシップ教育、環太平洋研究、異文化コミュニケーション学、言語習得学、アカデミックライティングについて学びました。人生で最も勉強した時期で、テスト前は図書館に籠り、睡眠と食事以外の時間はずっと勉強していました。ここでの学びが今、教師として子どもたちに向き合うベースとなっています。

帰国後、大学 3 年生の頃から今に至るまで少しでも多くの若者が留学する機会を増やしたいと思い「トビタテ！留学 JAPAN」の同窓組織「とまりぎ」の運営メンバーになりました。この同窓組織を存続、発展させていきたいという想いが空回りし、自分も仲間も傷つけて、メンバーが離れていってしまった時期もありました。留学によって、人生を変えられた自分がこの組織を衰退させてしまうことは、これまで歩んできた自分の人生や存在価値を否定してしまっている気がして、何を対価しても必死に頑張るしかないと思い込んでいたのだと思います。今は「強迫観念や恐れに突き動かされて行動するのではなく、根底にある願いに目を向けて行動すること。世界は広く多様な価値観がある中で自分は本当はどう生きたいと望んでいるのか？ただそれだけを大切にすればいいのだ」と思っています。

これまでの人生を振り返ってみて、今日皆さんに最も伝えたいことは、人生の大きな方向性を決めるような出来事に会ったのは 10 代の頃だったということです。10 代の過ごし方が人生の方向性を決める土壌になると思います。何か自分の興味があること、心惹かれることがあったら、迷わずやりましょう。たとえそれが失敗しても、自分らしい人生に繋がっていきます。自分らしい選択の積み重ねが理想の自分をつくっていくのです。